

平成 27 年 6 月 15 日

「社会教育行政と多様なボランティア推進主体との 連携モデルの開発に関する調査研究報告書」の概要 (大学生のボランティア活動との連携)

国立教育政策研究所では、社会教育における体験活動・ボランティア活動の推進等に資するため、社会教育行政と大学等を中心とする多様なボランティア推進主体との連携の在り方について調査を行い、その結果を取りまとめた報告書を作成しましたので公表します。

(アドレス：<http://www.nier.go.jp/jissen/chosa/houkokusyo1-26.htm>)

1 調査のねらい

平成 7 年の阪神・淡路大震災以降、地域におけるボランティア活動は活発となり、平成 23 年の東日本大震災では、多くの学生ボランティアが被災地に駆けつけ、支援活動に関わった。また、大学教育においては近年「サービ斯拉ーニング」を始めとして、ボランティア活動の持つ潜在的な教育力に着目した取組が行われてきている。こうした中、第 2 期教育振興基本計画においては、「地域における学生ボランティアに対する大学等の支援状況の向上」等が指標の一つとして示されている。

一方、平成 25 年 1 月の「第 6 期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」において、「今後、多様化・高度化する地域の課題に対応し、地域の活性化を図っていくためには、人材や情報・技術など様々な資源を有する大学等との連携・協働が不可欠であり、社会教育担当部局からも積極的に働きかけを行っていくことが求められる。」と述べられており、今後の社会教育行政において、大学等との連携・協働は大変重要となっている。

本調査研究は、社会教育行政と大学等を中心とする多様なボランティア推進主体との連携の在り方を探ることを目的に、学生がボランティア活動等により地域の活性化に寄与している特色ある事例を収集・整理分析し、その結果を取りまとめたものである。

2 調査研究の概要

学生ボランティア等の特色ある活動事例を、①大学と行政が連携し、地域の社会教育事業に学生ボランティアを生かしている事例、②学生ボランティアが地域活性化のために活躍している事例、③大学のサービ斯拉ーニングとして学生がボランティア活動をしている事例、④大学の専門教育プログラムが地域のボランティア活動等と結び付いた事例、⑤学校支援に学生ボランティアが活動している事例、に分類し、聞き取り調査を行った。聞き取り調査期間は、平成 26 年 3 月から 8 月までである。

No.	実施団体及び事業等の名称	分類				
		①	②	③	④	⑤
1	埼玉県教育委員会・東洋大学等「子ども大学あさか」	○				
2	香川大学「直島プロジェクト」		○			
3	岐阜経済大学「マイスター倶楽部」		○			
4	立命館大学「サービ斯拉ーニングセンター」			○		
5	桐蔭横浜大学「社会貢献論」「サービス・ラーニング実習」			○		
6	島根大学「1000 時間体験学修」プログラム				○	
7	広島県立生涯学習センター「ワクワク学び隊」					○
8	青森県総合社会教育センター 「高大連携キャリアサポート推進事業（キャリアサポ）」					○

■報告書の活用と普及予定

今後の社会教育の振興に資するため、都道府県・指定都市教育委員会等に配布するとともに、社会教育実践研究センターのホームページに全文掲載し、社会教育関係者に活用いただく。

<http://www.nier.go.jp/jissen/chosa/houkokusyo0-0.htm>

3 聞き取り調査結果の概要（主な事例を紹介）

埼玉県教育委員会・東洋大学等「子ども大学あさか」

埼玉県が開講している「子ども大学」の一つで、子供たちを対象に大学教員による授業が行われている。東洋大学の学生は運営ボランティアとして参加している。学生たちにとって大きな経験となるとともに、大学にとっては正課外の教育プログラムとして意義がある。



香川大学「直島プロジェクト」

地域活性化を目的に、ゼミともサークルとも異なる学生主体の「プロジェクト」を組織し、教員のサポートを受けながら、観光地でのカフェ経営を中心とした活動を行っている。このプロジェクトにより学生が地域活性化の主体となるとともに、学生自身の学びの場ともなっている。



立命館大学「サービスマーケティングセンター」

「地域課題の解決」「学生の自主的な学び」などをキーワードに、ボランティア活動の支援、サービスマーケティング科目の開講等を行っている。センターには、学生の視線でサービスマーケティングをサポートするために、「学生コーディネーター」を設置している。



島根大学「1000時間体験学修プログラム」

教員養成課程のカリキュラムとして、教育学部の全学生に「1000時間体験学修」プログラムを導入している。学生にとって様々な教育効果があるとともに、学校や地域の社会教育施設等での活動を充実させ、大学による地域貢献の仕組みとして機能している。



広島県立生涯学習センター「ワクワク学び隊」

県内の市町が開設している放課後子供教室を対象に、大学生ボランティアチームを派遣している。県教委（生涯学習センター）がチームの登録や派遣先とのマッチングを行い、放課後子供教室の活性化と大学生の社会貢献活動の支援に成果を挙げている。



4 調査研究の結果概要

- 学生のボランティア活動等の支援において、社会教育に求められる役割には、学生を受け入れる「活動の機会の提供」と、大学と地域社会を結び付ける「活動の機会のコーディネート」がある。
- ボランティア活動は教室では得難い学びの機会であり、専任職員の配置や、その業務を展開するスペースの設置等、学生のボランティア活動を推進するための環境の整備が必要である。
- 大学と地域との関係は、大学の教育機能の拡充のために、大学自体の課題解決のために地域が必要だという双方向の段階を迎えている。
- 学生のボランティア活動への欲求や大学教育のニーズと、地域社会の教育力とを結ぶ「教育マッチングシステム」の構築が重要である。社会教育主事などが、①ボランティア活動等の受入先の開拓やプログラムの開発、②信頼できる情報の収集・提供などマッチング機能の運営全体をプロデュースしていくことが求められている。近隣に大学のない地域においても、地域活性化のために大学と連携していくことが求められる。

(問合せ先)

国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

社会教育調査官 波塚章生(直通 03-3823-4988)

専門調査員 尾山清龍(直通 03-3823-8683)